

「地域でことばを失った人を支える」

失語症者の在宅訪問ケア

在宅言語聴覚士 平澤 哲哉

言語聴覚士（ST:speech therapist）とは

言語障害、難聴、言語発達遅滞など言語・聴覚の障害をもつ人が対象
平成9年言語聴覚士法が制定、国家資格に位置づけられる
リハビリテーション科を中心とした医療機関、障害児の施設などにいる

失語症とは

脳血管障害や交通事故などで大脳の言語中枢が損傷を受け、起こることばの障害
聞く、話す、読む、書く、計算する などの機能に障害
言語のみでなく、医療的・心理的・社会的にも多くの問題を抱えている
繰り返し長時間(数年)訓練することで、少しずつ良くなる
入院期間に制限があり、十分なケアができないまま退院するケースが多い
地域での受け皿がまったく不足している
復職はとても難しい

私と失語症

1983年9月交通事故に遭う（大学3年時）
陥没骨折の下に硬膜下血腫と脳挫傷が認められ、緊急手術 3週間の意識障害
左脳の損傷 失語症 言語リハビリは駿河台日大病院で
「早く良くなりたい」「良くなると困る」と、必死の取り組み
大学に復学 学友とのつながり、輪に入っていけない
就職は困難、できない自分に自己嫌悪 独りで悩み、孤独の殻に閉じこもる

STとして就職

1987年1月からST職開始。
患者、家族の声「ことばを良くして下さい」「喋れるようにして下さい」 きちんと学んでおきたい
1988年 大阪教育大学特別専攻科で学ぶ
「失語症の私が、同じような症状を持った患者に対し何が出来るのか」
「言語治療の目的は何で、何をすれば良いのか」
遠藤尚志STの活動に興味を持ち1ヶ月の研修
1989年 山形県鶴岡市の病院に就職 STにおける地域ケア活動を学ぶ（訪問ST,友の会等）
1992年12月、山梨に戻る
1994年 東山地区失語症友の会を設立
1996年より「山梨県失語症者のつどい」を開催 今年で9回目
言語リハビリ教室の開催を求め市町村に折衝
2002年4月より在宅言語聴覚士スタート

在宅訪問ケアの目的

ことばの機能回復に留まらず、心理や生活などQOLの向上、社会統合を図る

在宅訪問ケアの利点

- ・ 移動の不安がない
- ・ 時間にゆとりがある
- ・ 本拠地でリラックスできる
- ・ 教材にこと欠かない
- ・ 意思伝達方法の家族への指導も一緒にできる

STの大切な役割

失語症者とその家族が生き生き生活できるための援助をしていくこと
相手に対する思いやり

「治療してあげる、してもらおうという関係では、コミュニケーションは良くなるしない」
大切なのは「できる」評価！ 生きていくための大きな励み

失語症者の受け皿

病院・・・入院、外来 follow 短期間にて不十分
老健施設・・・デイケア（個人訓練が可） STという職種の理解が不十分
デイサービス・・・集団にてコミュニケーション訓練 失語症者のみの集団構成が困難
リハビリ教室・・・市町村での有効な取り組み 必要性の認知度低い
失語症友の会・・・生活リハビリの場 STの意識に問題

「在宅訪問リハビリテーション指導管理料」

今年4月から、STの算定が可能になる！ 患者負担かなり減る
理解ある開業医との契約 在宅STの活用性が拡大 失語症者の助けに

言語治療の目的

「不自由なことや不便なことは確かに多いが、私は幸せである」と感じるようになること
失語症者が幸せを実感するための最も大切な条件
自分はひとりぼっちではない、「仲間意識」
自分にはできることがある 「可能性に関する知識」

現在残された大きな問題

長期継続ケアの意味、重要性を理解する人が少ない
ケアの内容を豊かにするための工夫や努力が不足
第三の医学といわれるリハビリテーション 機能回復が主目的
慢性期障害者への全人間的支援 地域リハビリテーション 「第四の医学」

病院だけでは ことばは良くなるしない
決して一人では ことばは良くなるしない

この機会を元に、これからもお互いに交流し、助け合いながら、勇気を持って一緒に歩いていけたらと考えます。

ありがとうございました。

平澤 哲哉 (Hirasawa Tetsuya)

<連絡先> 塩山市上於曾 4 9 5 0553 - 33 - 3695

E-mail denden@kcnet.ne.jp

<http://www.kcnet.ne.jp/> dendens/